

I C T 学習教材コンテンツ活用実践事例

		学校名	県立八戸聾	学校
授業について	教科領域名 (✓又は■で記入する。)	<input type="checkbox"/> 国語 <input type="checkbox"/> 社会 <input type="checkbox"/> 算数・数学 <input type="checkbox"/> 理科 <input type="checkbox"/> 外国語・外国語活動 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> 音楽 <input checked="" type="checkbox"/> 図画工作・美術 <input type="checkbox"/> 体育・保健体育 <input type="checkbox"/> 技術・家庭 / 職業・家庭 / 職業 / 家庭 <input type="checkbox"/> 特別の教科 道徳 <input type="checkbox"/> 総合的な学習（探究）の時間 <input type="checkbox"/> 日常生活の指導 <input type="checkbox"/> 生活単元学習 <input type="checkbox"/> 作業学習 <input type="checkbox"/> 遊びの指導 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> その他（ ）		
	単元(題材)名	「 空き容器の変身 」		
	単元(題材)の目標	・ 空き容器や水彩絵の具などを適切に扱い、様々な表現方法を体験することができる。		
学習集団と実態	学部・学年・人数	小学	部	3 年 3 人
	本単元(題材)における学習集団の主な実態	<ul style="list-style-type: none"> ・ 補聴器や人工内耳を活用している。 ・ 聴覚口話、手話、指文字を併用し、コミュニケーションをとることができる。 ・ 造形活動を楽しみながら行うことができる。 ・ 造形活動の実態として、想像したものを作品に仕上げることができる児童や、写真を参考にして制作を進めることのできる児童などが見られる。 		
I C T 活用について	使用した支援機器・教材の名称	電子黒板		
	使用したアプリケーションの名称	カメラ		
	主な活用の用途 (✓又は■で記入する。)	(複数選択可能) <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション支援 (<input checked="" type="checkbox"/> 意思伝達支援 <input type="checkbox"/> 遠隔コミュニケーション支援) <input checked="" type="checkbox"/> 活動支援 (<input type="checkbox"/> 情報入手支援 <input checked="" type="checkbox"/> 機器操作支援 <input type="checkbox"/> 時間支援) <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援 (<input checked="" type="checkbox"/> 教科学習支援 <input type="checkbox"/> 認知発達支援 <input type="checkbox"/> 社会生活支援) <input type="checkbox"/> 実態把握支援		
	I C T 活用のねらい	・ 児童が制作した作品を、タブレットで撮影してテレビに拡大表示し、共有することができる。		
活用の状況と支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 視覚教材（電子黒板）や試作を提示することで、児童が見通しをもつことができた。 ・ 授業を進める上で、教師のイメージを児童に伝え易かった。 ・ 電子黒板のみでは、情報量が多すぎる感じを受けた。板書（単元名、めあて、道具類の名称、注意事項等）を併用することにより、導入時の説明も簡素化されると思う。 			